

「有意義な大学生活への扉」

有馬 守 康(専任講師 ミクロ経済学)

僕の担当しているミクロ経済学Ⅰ・Ⅱは、Ⅰは全学科、Ⅱは経済学科の必修科目になっています。必修科目ですので、この授業の単位を取れないことには卒業が出来ないということももちろんありますが、何と言っても皆さんがその後の応用科目を学ぶ上でミクロ経済学の知識を持つのと持たないのとでは理解の早さも深さも実は格段に違ってきます。つまりこの科目をマスターできるかどうかで、その後の大学生活を有意義に過ごせるかどうかにも大きな影響を及ぼすのです。その意味で、受講生の皆さんにいい成績をとってもらいたいのももちろんですが、それ以上にいかに受講生の皆さんがこの科目に興味を持ち、好きになり、今後の学習意欲を高めてもらえるかに僕はいつも最大限の注意を払っています。

僕がこの科目を教え始めた頃、ミクロ経済学は「つまらない」「何の役に立つのか分からない」という感想を多く耳にしました。実はミクロ経済学をある程度理解すれば「面白くてすごく役に立つ」ことを実感してもらえるのですが、なかなかその域に達する前に判断してしまう人が多いのです。多数の初学者が同じような感想を抱いているのだとすれば、早い段階でいかにミクロ経済学が「面白くて役に立つ」のかを実感してもらいたいことが学習意欲を高める一つの方法だろうと考えるようになりました。

いったいどこがつまらなく、役に立たないように見えるのか——これを突き止めるためにとにかく皆さんから意見や感想を引き出し把握しなければならぬと思い、その一環として、僕は2006年度から出席票を通信欄に使用し受講生の皆さんとのコミュニケーションを図ってきました。授業で理解できなかったことを質問してもらうことはもちろん、授業の感想や意見、その他何でも書きたいことを自由に書いてもらっています。翌週の授業で皆さんからの質問への回答をプリントにして返すのですが、多いときはA4で3枚に渡ることもありました。これによって黒板の使い方から話す速度、プリントや宿題の作り方、講義の組み立てに至るまで、受講生の皆さんから様々な提案や意見を頂戴することで、授業の改善に相当役に立ちました。

この他にも、受講生の皆さんから頂いた一見授業とは関係ないコメントからも、普段皆さんがどのようなことに興味があり、どのようなことに悩み、どのような夢を抱いているのかを知ることができましたし、それを授業の題材に積極的に活用することで皆さんの興味を引き出すような授業の組み立ても出来るようになったと思います。逆に僕も皆さんから今どんなことが流行しているのかとか、どこそこのお店が安くて美味しいとか、いろいろと役立つ情報を教わることも多かったです。

お陰さまで最近になって「ミクロ経済学の授業は楽しい」とおっしゃって下さる学生さんが少しずつ増えてきている手応えを感じています。昨年度末からは、僕が面白いと思った経済学の本の一部を1ページに抜粋しまとめて授業時に配るようにしています。ミクロ経済学Ⅰでは範囲外にあたる、ゲーム理論を用いた「強い者が必ず勝つわけではない」、情報の経済学を用いた「いい男のシグナル」、計量経済学を用いた「プロ野球監督の能力評価」等、経済学はこんなことにも使えるのだ！と感じてもらえるような内容を選んで紹介しています。それをきっかけに、図書館に無尽蔵に眠っている、皆さんの質問に答えてくれる“先生”に出会いに行ってくれればと願っています。恐らく皆さんは経済学への視野が一気に広がることを体感するでしょうし、そこから本当の意味での有意義な大学生活を見出すことが出来ると思います。今年も皆さんを図書館で待っている何十万人もの先生方にご紹介できるようにお手伝いして参ります。一緒に頑張りましょう！